

公使ヨリ張總長ニ申入ノ件

第九号

公使發上海宛第一八号（二月二十四日）

第一六六号（公使發外務大臣宛）

往電第一六二号ニ関シ二月二十三日本使ハ張總長ニ會見シ漢治萍公司新借款ニ對シ近來支那側ニ現レタル反對意見ニ付テ悉一弁駁ヲ加ヘ此ノ際該契約ノ破棄ヲ試ミテ日支國際關係ノ紛糾ヲ來スノ不可ナルコトヲ説キタルニ張ハ漢治萍公司カ日本國ヨリ借款ヲ起スコトニハ主義ニ於テ異存ナキモ盛宣懷ノ遣リ方ハ非難ヲ免レサルコト等ヲ述ヘタルモ結局該契約ヲ維持スル積リナリト内話セリ果シテ如何程迄信ヲ置キ得ルヤハ問題ナレトモ不取敢電報ス委細郵便

四二四 二月二十八日 牧野外務大臣ヨリ
在中國山座公使宛（電報）

漢治萍借款契約ヲ認ムル能ハザル旨ノ商工部
指令ニ関シ中國當局者ニ警告方訓令ノ件

第一〇六号

漢治萍新借款ニ関シ貴電第一六二号及第一六六号ヲ以テ御報告ノ次第アリタルニ拘ラズ支那側ニ於テハ二月廿六日政府公報ヲ以テ該借款契約ヲ有効ト認ムル能ハザルニ付暫ク実行ヲ見合スベキ旨ノ工商部指令ヲ發表シタル趣ノ如右ハ反對運動ニ余儀ナクセラレタル結果ニシテ必ズシモ飽迄否認セムトスル次第ニハアラザルベキモ我ニ於テハ後日支那側ヨリ如何ナル申出ニ接スルモ斷乎トシテ契約ノ有効ヲ主張スル覺悟ナルニ付貴官ニ於テ右御含ノ上適當ノ方法ヲ以テ此上共支那當局者ヲ説キ輕挙妄動苟モ累ヲ國交ニ及ボスガ如キコトナキ様警告ヲ与ヘ置カラル様致タシ將又支那側ニ於テ此際漢治萍ヲ官商合併トナスノ意アル趣ノ如ク我ニ於テハ申迄モナク從來通り商弁トナシ置クコトヲ希望スル義ナルニ付御含置相成タシ

上海ニ転電アリタシ

事項一二 蒙古借款ニ関スル件

四二五 一月九日 山川横濱正金銀行副頭取ヨリ
小池政務局長宛

內蒙古科爾沁後旗阿穆爾靈圭親王ヨリ正金銀行
行ヘ借款申込ニ関シ処置伺ノ件

附屬書 大正二年十二月三十一日附横濱正金銀行北京支店ヨリ本店宛書翰写

大正參年一月九日 第五六号 （一月九日接受）

横濱正金銀行

副頭取 山川 勇 木（印）

外務省

政務局長 小池張造殿

拝啓蒙古科爾沁後旗阿穆爾靈圭親王ヨリ借款申込有之候ニ付如何可致ヤ別紙写之通リ北京支店ヨリ伺出候ニ就テハ貴省ノ御意嚮如何可有之ヤ何レ井上頭取參省御協議可申上候ニ付御一覽置被下度候 敬具

（附屬書）

大正二年十二月三十一日附横濱正金銀行北京

一一 蒙古借款ニ関スル件 四二五

支店ヨリ本店宛書翰写

東部蒙古科爾沁後旗阿穆爾靈圭親王申込京公

砒平銀六万兩借款ノ件

拝啓陳者今般阿穆爾靈圭親王ヨリ左記ノ条件ヲ以テ京公砒平足銀六万兩也借用方申出有之候処普通ナレハ貴部ノ御指図モ俟タス当然一モ二モナク斷リ可申儀ニ有之候得共御承知ノ如ク同親王ノ領地博王府ハ蒙古中最モ滿洲西部ニ接近シタル地方ニシテ農産物ニ富ミ猶聞ク所ニ依レバ同王ハ張家口北方百清里位ノ地点鷹手溝附近ニ礦山採掘權ヲ獲得シ居ルトノ事ニ有之且ツ最近支那ト締結シタル四平街ヲ起点トシ鄭家屯ヲ經テ洮南府ニ至ル鉄道線及洮南府ヨリ熱河ニ至ル鉄道線路ノ中間ニ位シ將來益々密接ノ關係ヲ増加スルノ形勢有之且ツ借款申込人ナル同王ハ蒙古王中喀喇沁王ト比肩スヘキ勢力ヲ有スル人物ニ有之候故一応小田切重役ニ相談致候処一先本店ニ伺申出ツル様指図有之候ニ就テハ本件ニ関シ何分ノ御指図可成至急相成度御願申上候尤モ同王ニ對シテハ条件云々ヲ申出デス唯貴部ノ御指図ヲ待チ回答

スル様申聞ケ候

申込ミ借款条件ノ大要左ノ通ニ候

一借款額 京公砒平足銀六万両也

二期限 四ケ年 年賦償還

三右借款中老万両ハ一日本技師ノ給料ニ充ツ

四抵当物 科爾沁左翼後旗領内地租收入

右件何分ノ御詮議ノ上至急御指図相仰キ度此段得貴意候

敬具

四二六 一月十三日

在中国山座公使ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

内蒙古阿穆爾靈圭親王ノ借款申入ニ応ズルハ

将来ノタメ有益ト思考セラルル旨稟申ノ件

附記 内蒙古博王旗状況等ニ関スル調書

第三八号

内蒙古科爾沁後旗阿穆爾靈圭親王ヨリ過般来其懇意ナル深
水十八(元當口正隆銀行経営者)ニ大体左ノ条件ヲ以テ借
款周旋ノ申込アリ

(一)金額 六万両

(二)期限 四箇年 第四年目ニ四度ニ分ケ償還

(三)利息 年八分 年末払

(四)借款中老万両ヲ差引キ双方ノ合意ニテ指定セル銀行ニ預
入レ置キ以テ傭聘スヘキ技師ノ旅費俸給ニ充ツ

(五)日本技師傭聘ニ関シテハ別ニ借主ノ定ムル章程ヲ適用ス
(六)担保ハ科爾沁後旗ノ地租トシ期限ニ至リ返済シ能ハサレ
ハ右地租收入ヨリ償還シ借主ハ期限前ト雖元利償還ノ自
由ヲ有ス

(七)将来借款ヲ起シ又ハ事業ニ関スル資金ヲ要スル場合ニハ
先ツ今回ノ貸主ニ商議スヘシ

(八)借款契約当事者ハ親王自身

然ルニ右申込者タル阿親王ハ内蒙古王公中最モ重要ナル地
位ヲ占メ外蒙古ノ那親王ト共ニ清朝時代ヨリ引続キ内外蒙
古操縦ノ鎖鑰タリ其ノ領地科爾沁左翼後旗(俗ニ博王旗ト
称ス)ハ東西遼河合流点以南ニ在リ内蒙古ノ交通上最モ重
要ナル地点ヲ占ム又同人ハ他ノ蒙古王ノ如ク諸方ニ借財シ
タル形跡ナク日本側ニ借款申込ハ今回初メテノ事ナレハ此
ノ際希望ノ借款ヲ与ヘ關係ヲ附ケ置キ彼レノ領地内ニ於ケ
ル将来ニ対スル地歩ヲ占ムルコトハ有益ナルヘク担保トシ
テ地租(一ケ年約三十万両ト称ス)以外ノモノヲ提供セシ

ムルコトハ只今迄ノ所見込ナキモ担保権ノ土地ニ及フコト
ハ同親王家ノ操縦上利益アルヘク殊ニ条件ノ一タル技師傭
聘ノコトハ利用方法宜シキヲ得ハ将来諸種ノ利権ヲ得ル端
緒トモナルヘシト思料セラル、処單純ナル金融業者トシテ

ノ横浜正金銀行等カ之レニ応スヘキ見込ナキニ付矢張り該
地方ニ關係深キ南滿洲鐵道株式會社ヘ御交渉ノ上此ノ借款
ニ応セシムル様御取計アランコトヲ希望ス尤モ先方ニテハ
表面南滿洲鐵道株式會社ヨリ借款ヲ起スコトハ承知ス間敷
模様ニ付キ名義人ハ或ハ深水トナスカ又ハ南滿洲鐵道株式
會社ノ指定スル(目立ザル)人物トナス外ナカラン
尚先方ハ旧年末遺線ニ金円ヲ要スル由ニテ余程取急ギ居ル
様子ニ付キ本件ハ至急取り運ヒヲ要スヘシ

(附記)

(一月十二日政務局第一課岩村外務屬調査)

博王旗狀況

哲里木盟科爾沁左翼後旗ハ博多勒噶台親王旗ニシテ普通略
シテ博王旗ト称ス最モ滿洲ニ接近シ法庫門ノ北方達賴罕旗
ノ南東ニ在リ東西凡ソ三十余里南北二十五里ノ面積ヲ有シ
人民ハ牧畜及農耕ヲ業トス

一一一 蒙古借款ニ関スル件 四二六

本旗ハ遼河流域ノ沃野ニ当リ哲里木盟中最モ早く開拓セラ
レ農産物多ク旗内ニ府県ヲ設ケ旗ノ東西部ハ遼源州(即チ
鄭家屯)ニテ管轄セリ

博王ノ履歷

博王即チ和碩親王阿穆爾靈圭ハ鴉片戰爭ノ際有名ナル驍將
僧格林沁ノ曾孫ニシテ早クヨリ北京朝廷ノ高官トナリ鑲白
旗漢軍都統トナリ又宮中ニテ御前大臣ノ職ニ在リタルカ革
命後モ蒙古ニ関スル党會ニ於テ常ニ牛耳ヲ取り蒙古王公中
最モ勢力アル者ノ一人ナリ
蒙古ノ同王府内ニ學堂ヲ設ケ日本人教師三名ヲ聘シテ旗民
ノ子弟ニ新教育ヲ施シ成績良好ナリト云フ

地租收入

地租收入トハ本邦ニ所謂地租トハ其意味ヲ異ニシ開墾ノ土
地ヲ漢民ニ貸付ケ年貢ヲ取立ツルノ謂ニシテ内蒙古一般ニ
行ハルル制度ナルガ如シ

附

阿親王ハ大正元年十月下旬長春ニ開催シタル内蒙古王公會
議(第一回)ニ際シ北京ヨリ派遣セラレ郭爾羅斯王ト共ニ
終始各王公間ヲ斡旋シ共和政府ヲシテ王公懷柔ノ便ヲ得セ

シメ右會議終了ノ後北京ニ帰レリ
那親王ハ外蒙古三音諾顏部中左末旗札薩克和碩親王那彥圖
ノ通称ニシテ阿親王ト均シク常ニ北京ニ在リテ高官トナリ
鑲白旗都統、崇文門監督、御前大臣、正紅旗、鑲黃旗、都
統健銳營統領等ニ歷任シ革命以後烏里雅蘇台將軍ニ任セラ
レタルカ未タ赴任スルニ至ラズ、親王ハ亦蒙古王公中ノ有
力者ナリ

四二七 一月二十日 在中国山座公使ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

滿鉄ヲシテ内蒙古阿穆爾靈圭親王ノ借款申入
ニ応ゼシムル様稟請ノ件
第六二号(至急)

貴電第三一号ニ関シ一月二十日横浜正金銀行支店長ハ阿親
王ニ面会親シク談話シタル結果小田切ハ純然タル金融業者
ノ見地ヨリハ貸付方ニ躊躇スル旨結論セルカ大要ハ福島都
督ヘモ本使ヨリ内話シタル処同官ノ意見ニテハ同地方ハ過
般來関東都督府ニ於テ調査シタル結果ニヨレハ博王旗ハ非
常ニ有望ナル地方ニシテ追々ハ水田經營盛ンナルヘキ見込
アリ旁々之レヲ逸スルハ国家ノタメ甚タ執ラサル所ナレハ

二十一日北京発

蒙古借款ノ件実相寺貞彦蒙古王会见ニ徴スルニ銀行トシ
テ充分安心取扱ヒ得ザルモノナルガ左リトテ現狀危險ア
リトモ思ハレズ一面鐵道事業ノ關係モ有之候ニ付本邦ノ
何レノ方面ヨリカ貸出ヲ受クルコト得策ナラン

小田切万寿之助

四二九 一月二十二日 在中国山座公使ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

阿穆爾靈圭親王借款ニ関シ至急回訓方稟請ノ
件

第七一号(至急)

往電第六二号ニ関シ福田參謀長ヨリ福島都督ヘノ電報ニヨ
レバ科爾沁借款ノ件犬塚ト協議シタル処之ニ応スルハ同意
ナルモ目下總裁赴任ノ途中ニ在ルヲ以テ總裁トノ協議ヲ待
ツコトトセハ多少遅延スル虞アリ然レトモ若シ外務省ヨリ
本件ニ付会社ニ要求セラルレバ犬塚一人ニテ決裁スルコト
容易ナリトアリ同電正金支店長カ阿親王トノ会见ニ於テ余
程切リ込ミタル結果親王ハ最早正金ヨリハ断シテ借款セサ
ル旨言ヒ居レル由ナルノミナラス予備契約ノ期限モ過キタ

一一 蒙古借款ニ関スル件 四二九 四三〇

是非南滿洲鐵道株式会社ヲシテ引受ケシメタシトノコトニ
テ同官ハ犬塚ニ電報シタリ
然ルニ阿親王側ニ於テハ日本側借款ノ見込ナクハ他ニ貸手
アル其ノ方ヘ相談スヘシト云ヘル由ナルカ右ハ或ハ懸引ナ
ランカトハ思ハレトモ万一他方面ト契約成ルカ如キコト
アラハ取返シノ付カサルコトナルヘキニ付右御含ノ上重
テ南滿洲鐵道株式会社ヘ御交渉アリ火急ニ決定アラシム
ヲ希望ス

四二八 一月二十一日 武内横濱正金銀行總支配人代理ヨリ
小池政務局長宛

阿穆爾靈圭親王借款ニ関スル小田切取締役ノ
意見ニ付報告ノ件

大正三年一月廿一日 第一〇五号 (一月二十二日接受)

横濱正金銀行

總支配人代理 武内 金平(印)

外務省

小池政務局長殿

拜啓蒙古科爾沁後旗阿親王借款ノ件ニ付左ノ通り小田切取
締役ヨリ來電有之候間御承知置被下度候 敬具

ルコト故此上ノ交渉成効スヘキヤ否ヤハ確カナラサレトモ
尚一分ノ脈絡アルニ付至急何分ノ返電アリタシ

四三〇 一月二十二日 牧野外務大臣ヨリ
床次鐵道院總裁宛

滿鉄ノ阿穆爾靈圭親王借款引受ニ配慮方要請
ノ件

政機密送第一三三号

今回山座公使ノ電票ニ依レバ内蒙古阿親王ヨリ其從來懇意
ナル深水十八ナル者ヘ別紙記載ノ条件ヲ以テ六万兩借款ノ
周旋方ヲ依頼シタル趣ナル処同親王ハ内蒙古王公中最モ重
要ナル地位ヲ占メ其領地科爾沁左翼後旗ハ東西遼河合流点
以南ニ在リ内蒙古ノ交通上最モ重要ナル地点ヲ占ムルノミ
ナラス同親王ハ他ノ蒙古王公ノ如クニ諸方ヨリ借財シタル
形跡モ無之且ツ日本側ニ對シ借款ヲ申込ミタルハ今回初メ
テノ事ナル趣ニ有之候得バ此際希望ノ借款ヲ与ヘ關係ヲ附
ケ置キ彼ノ領地ニ於ケル将来ニ對スル地步ヲ占ムルコトハ
太タ有益ナリト思料致候就テハ南滿洲鐵道会社ヲシテ至急
右申込ニ応ゼシムル様可然御配慮相煩度此段及照会候也

註 別紙ヲ省略ス別紙記載ノ条件ハ前掲四二六文書ノ(一)乃至(六)

二一 蒙古借款ニ関スル件 四三一 四三二 四三三 四三四

ト同文ナリ

四三一 一月二十二日 牧野外務大臣ヨリ
在中国山座公使宛(電報)

阿穆爾靈圭借款ハ満鉄ヲシテ引受シムルニ決

定ノ件

第四八号(至急)

貴電第七一号ニ関シ関係官庁ト協議ノ結果愈々満鉄ヲシテ
本件借款ニ応セシムルコトニ決定シ一月廿二日満鉄副總裁
ヨリ其旨總裁及犬塚ニ電報シタルニ付右ニ御承知アリタシ
何レ總裁又ハ犬塚ニ於テ支那側トノ交渉方法ヲ定メ当方ニ
申出ツヘキニツキ其上ハ重ネテ電報スヘシ

四三二 一月二十二日 在中国山座公使ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

阿穆爾靈圭借款ハ急ヲ要スルニ付満鉄及正金

ニ夫々措置方至急指令アリ度旨稟請ノ件

第七三号(至急)

貴電第四八号ニ関シ先方ノ期限ハ往電第七一号ノ通明二十
三日午後迄ニシテサナキダニ旧年末切迫ノ折柄此ノ上御来
示ノ如ク交渉ノ方法ヲ定メ往復ヲ重ヌル余地ナシ要スルニ

待ツ様先方へ申入ノ件

第七七号

貴電第五二号ニ関シ佐藤ノ着京日取モ明ナラス大晦日モ明
日ニ迫レル際又復漠然延期ヲ申入ル、コトハ出来難キニ付
一月二十四日深水ヲシテ先方ニ対シ満鉄ニ於テ出資ノ意ア
リ其ノ為代表者来京ノ筈ニ付出来ルナレハ其来着ヲ待チ直
接交渉セラルヘキ旨申入レシメタリ結果如何ニ成行クトモ
致方ナキニ付予メ御承知ヲ請フ

四三五 二月五日 在中国山座公使ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

科爾沁王借款契約調印及現金授受済ノ件

第一〇六号

科爾沁王借款契約二月五日佐藤安之助ト王トノ間ニ調印現
金授受済ミ

四三六 二月十八日 在中国山座公使ヨリ
牧野外務大臣宛

阿穆爾靈圭親王ト佐藤安之助間ニ成立ノ借款

契約写送付ノ件

附屬書 二月五日附右契約書写

二一 蒙古借款ニ関スル件 四三五 四三六

六七〇

目的ハ阿親王ヲシテ我方ト絶ツ可カラサルノ縁因ヲ作ラシ
メ併セテ内蒙ニ於ケル最有望ナル其領地内ニ我勢力ヲ發展
スルノ基礎ヲ築クニ至ルカ故ニ深水ヲ名義人トシ大体往電
第三八号ノ条件通り本契約ヲ締結セシムルコトニ致シタク
右御是認ノ上大至急南滿洲鐵道株式會社ヘ御命令相成リ同
時ニ当地横浜正金銀行支店ヘ本使請求次第南滿洲鐵道株式
會社ノタメニ借款金額六万兩ヲ支払フヘキ旨本店ヨリ電命
スル様御取計ヲ請フ

四三三 一月二十三日 牧野外務大臣ヨリ
在中国山座公使宛(電報)

阿穆爾靈圭借款取極ノ為満鉄ヨリ佐藤中佐ヲ

北京ヘ派遣ノ件

第五二号(至急)

貴電第七三号ニ関シ

満鉄ヨリ佐藤中佐ヲ貴地ニ派遣シ取極メシムル筈ニ付先方
ヲシテ暫ク待タシムル様御配慮相成タシ

四三四 一月二十四日 在中国山座公使ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

阿穆爾靈圭親王ノ借款ニ付満鉄代表ノ来京ヲ

附記

大正四年六月二十七日在中国日置公使宛加藤外
務大臣宛機密第二〇一号

阿穆爾靈圭親王借款ノ其後ノ狀況報告ノ件

機密第七四号

(二月二十八日接受)

大正三年二月十八日

在支那

特命全權公使 山座円次郎(印)

外務大臣男爵 牧野伸顯殿

科爾沁王借款契約写送付ノ件

本件ニ関シテハ本月五日佐藤安之助ト阿親王トノ間ニ調印
ノ上現金受渡済ノ趣同日附拙電第一〇六号ヲ以テ及御報告
置候処右契約写日支兩文各一通本月十四日附ヲ以テ在奉天
佐藤安之助ヨリ本使宛送越候ニ付各通写別紙ノ通供御参照
度右申進候也

(附屬書)

写

契約書

科爾沁左翼後旗親王阿穆爾靈圭(以下単ニ甲ト称ス)ハ張
家口鷹手溝石棉礦採掘並ニ鷹手溝境内ニ於ケル其他ノ礦山

六七一

調査ノ為メ彭蓮齋、高鳳喈兩人ノ媒介ニヨリ日本資本家佐藤安之助（以下単ニ乙ト称ス）ヨリ借款ヲ行フ之レカ為メ左ノ条件ヲ約定ス

第一条 乙ハ甲ニ日本金八万円ヲ貸与ス此金額ハ本契約書記名調印ト同時ニ乙ヨリ甲ニ交付ス

第二条 前条ノ借款ハ向フ参年間据置第四年目ニ於テ四期ニ分チ償還ス

第三条 利息ハ年八分（元金百円ニ対シ金八円）トシ毎年陽曆拾貳月拾五日甲ヨリ乙ヘ北京ニテ支払フモノトス

第四条 甲ハ本契約成立後四個月内ニ於テ其定ムル所ノ技師規則ニ照ラシ日本技師老名ヲ増聘スルコトヲ約ス此技師ハ技師長ノ指揮ヲ受ケ業務ニ従事スルモノトス
第五条 甲ハ本借款金額中ヨリ壹万兩ヲ提出シ乙ト連名ニテ横浜正金銀行北京支店ヘ預ケ入レ以テ前条ノ日本技師ニ対スル旅費及俸給ニ充ツ

第六条 本借款ノ担保ハ科爾沁左翼後旗ニ於テ甲ノ収ムル所ノ地租トス若シ期限ニ到リ本借款ヲ返還セサル場合ハ甲ハ該地租ノ収入ヲ乙ヘ提供スルモノトス

安之助先生借定金款雙方議定借款合同條件列左（以下借主阿穆爾靈圭稱甲貸主佐藤安之助稱乙）

一 乙願貸甲日本金捌萬圓整本合同簽字蓋章互換時同時在北京將金款壹次交清

一 此項借款以第肆年起分肆期〔參箇月爲壹期〕屆期當照以上所合定日本金額本利齊付

一 利息長年捌釐〔每年每壹百圓以捌圓爲息〕甲值每年陽曆拾貳月拾五日在北京付息壹次

一 允照甲所訂工程司章程添請日本工程司壹名歸甲之總工程司指揮以執行事務此項當請甲於本合同成立後肆箇月內請定

一 甲由此項借款內提出日金合成北京公砒平銀壹萬兩與乙公同連名交正金銀行北京支店內存儲專爲添請日本工程司薪水川資用

一 此項借款現以科爾沁左翼後旗甲所經收地租爲保證品如到期不還當由甲於該地租項下首先提出照期如數還清

一 甲在契約期內如因前項所列事宜設或資本不敷再行添借應先與彭蓮齋商議辦法仍可與乙商用如臨時條件雙方有不適之處則甲聲明理由後即可向他處商借乙不得抗議

第七條 甲ハ本契約期限內ニ於テ其事業ノ為メ更ニ借款ヲ行ハントスル場合ニハ彭蓮齋、高鳳喈、兩人ト協議ノ上先ツ之ヲ乙ニ量リ其条件不合ナルニ於テ他ヨリ借款スルコトヲ得

第八條 本契約所載ノ各条ニ関シ甲若故意ニ履行ヲ怠ル場合ニハ乙ハ賠償ヲ請求スルコトヲ得

第九條 本契約書日支兩文ニテ各式通ヲ製シ署名調印ノ上双方ニ各壹通ヲ保有ス

大正參年貳月五日
民國參年貳月五日

借主	阿穆爾靈圭（署名）（印）
貸主	佐藤安之助（署名）（印）
駐京貸主代表	深水 十八（署名）（印）
保証人	彭 蓮 齋（署名）（印）
紹介人	高彤墀鳳介（署名）（印）

（右漢文）

合同

科爾沁左翼後旗親王阿穆爾靈圭今因經辦張家口鷹手溝石棉礦並查勘鷹手溝境內其他礦山特託彭蓮齋向日本資本家佐藤

一本合同所載各條如甲故意概不履行行則乙當有請求賠償之權

一本合同繕就漢文日文兩份由雙方核對無訛簽字蓋章交款畢由彭蓮齋分呈雙方各執漢文日文各壹份以昭信守

借主	阿穆爾靈圭（署名）（印）
貸主	佐藤安之助（署名）（印）
駐京貸主代表	深水 十八（署名）（印）
保証人	彭 蓮 齋（署名）（印）
紹介人	高彤墀鳳介（署名）（印）

大中華民國三年二月五日
大日本國三年二月五日

（附記）

大正四年六月二十七日在中國日置公使ヨリ加藤外務大臣宛公信

阿穆爾靈圭親王借款ノ其後ノ狀況報告ノ件
機密第二〇一號

大正四年六月二十七日

在支那
特命全權公使 日 置 益（印）

外務大臣男爵 加藤高明殿

昨年一月故山座公使在任中蒙古阿親王ニ対スル滿鉄借款成立ノ事情ハ御承知ノ通りニ有之然ルニ本使来任以後本件ニ就テハ当事者側ヨリ何等ノ報告ニモ接スル所ナク今日ニ至レル次第ニ有之候処最近本件ノ提議者ニシテ其後阿親王府顧問ノ名義ヲ有シ居レル元宮口正隆銀行経営者深水十八ヨリ別紙ノ如キ長文ノ報告書ヲ提出致シ候右ニ拠レハ過去一年半中本件ノ経過ハ何等特記スルニ価スル義モ無之滿鉄ノ貸付金八万円ニ対スル利息ノ支払ハ今日迄滞リナク相済ミ尚ホ本年六月ニ入り日本金三千円ノ一時借入ヲ申込ミ滿鉄ニ於テ其希望ニ応スルコトナリタル外借款契約書面ノ目的タル張家口外石綿礦採掘及其他礦山探検ノ件ニ関シテハ第一、昨年十一月借款契約ニ本ツキ雇入レシメタル滿鉄技師同道張家口ニ赴キ右石綿礦ヲ見分シタルモ其ノ經濟の価値十分ナラサルコトヲ認メ阿親王側ニ対シ其ノ採掘着手ヲ思ヒ止マラシメ進ンテ第二ノ爾余礦山探検其他ニ関シ先方ヲ誘導シテ我カ目的ニ供セン為一意彼等ノ疑惑ヲ去リ其ノ安心ト信用トヲ得漸次東蒙内部ニ於ケル投資企業ノ本目的ヲ達センコトニ力メ今日ニ至レルモノ、如クニ有之其結果

ヨリ開魯県ニ至ル西遼河ノ沿岸ニ亘リ恰モ我カ滿鉄沿線ヨリ東蒙古ニ向ヒ勢力伸張ノ要衝ニ当リ随テ阿親王一族ト關係ノ如何ハ今後我カ東蒙經營ニ対スル利害不淺次第ト存セラレ候本件ヲ右ノ如キ目的ニ利用スルニハ尚ホ多クノ時日ト手段トヲ要スル次第ニ候ヘ共前述ノ通り石門塞炭礦探検ノ如キハ即チ其ノ一步ヲ進メタルモノニシテ本件成立ノ当初本省ニ於テモ熱心御助成ノ事實ニ顧リミ其後ノ成行報道旁別紙相添此段申進候也

註 別紙深水報告書省略

四三七 四月十三日

在中国山座公使ヨリ
牧野外務大臣宛

内蒙王公ノ外債禁止ニ関スル新聞記事報告ノ件

公第一〇五号

(四月二十一日接受)

大正三年四月十三日

在支那

特命全權公使 山座円次郎(印)

外務大臣男爵 牧野伸顯殿

四月十二日ノ当地発行京津時報ハ「禁止蒙旗擅借外債」ト

一一 蒙古借款ニ関スル件 四三七 四三八

ハ最近日支交渉ノ影響アルニ拘ラズ前記滿鉄技師ノ契約期限ハ一ケ年ニシテ既ニ滿期トナレルモノヲ更ニ一ケ年延長傭聘スルコトニ承諾シ今回進ンテ深水ノ勧誘ニ応シ山海関内石門塞在奉天三谷末次郎關係ノ無烟炭礦ヲ探検シ其見込アルニ於テハ阿王側ニ於テ之ヲ經營シ必要ニヨリ日本ヨリ資金ヲ仰ク可キ内約ニテ阿王府直屬ノ支那人技師ト共ニ前記滿鉄技師ヲ同礦山ニ派遣スヘキコトナリ深水ハ同技師ト共ニ本日出發山海関ニ向ヒ奉天ヨリ来ルヘキ三谷末次郎ト会合シ石門塞ノ炭礦見分ニ從事ス可キ筈ノ由ニ有之候右石門塞炭礦ハ炭質ノ如何モ疑問ニ属スルカ上開瀝炭礦秦皇嶋埠頭及京奉鐵道線路等ノ關係上各方面ノ反对ヲ預期セザルヲ得ス阿親王側ノ企業トシテハ聊カ重荷ニ過クルノ感有之其結果如何ハ預知ス可カラスト雖本借款問題ノ關スル限リ相手方利用ノ途ニ向ツテ一步ヲ進メタルモノニ可有之右阿親王ハ疾ク御承知ノ如ク有名ナル僧格林沁ノ嫡孫ニシテ内蒙古全体王公ニ対スル声望ハ喀喇沁王ニ過キ其ノ本旗同族中ニハ達爾罕王、卓里克圖王、賓圖王、楊桑貝勒、及ヒ前キニ外蒙古ニ投シ後ニ民国ニ帰順シタル功ニヨリ親王ニ封セラレタル元ト阿爾花公ノ如キアリ是等ノ旗地ハ鄭家屯

題シ左ノ記事ヲ掲載セリ

財政部ノ消息ニ因レハ近日内蒙各旗ノ王公カ民国紀元以來財政ノ困難ナルヨリ擅マニ外債ヲ借ル者多ク中央ノ主權ニ妨ケアルヲ以テ日前會議ノ結果遂ニ蒙藏局ト会同シ奉天民政長ニ電令シ各旗王公ニ転告シテ云ク嗣後如何ナル事故ニ因ルニ拘ハラス中央ノ准許スルモノ、外ハ一概ニ擅ニ外債ヲ借ルヲ許サス以テ主權ヲ保ツ云々

ト有之固ヨリ一新聞ノ記事確信ノ由ナキモ近來支那政府カ内蒙ニ対スル施設其他ノ事情ヨリ忖度スレハ穴勝ち根拠ナキ事ニモ有之間敷何等御參考迄及報告候也

本信写送付先在奉天総領事

四三八 四月十四日

牧野外務大臣ヨリ
在中国山座公使宛(電報)

蒙古巴林王ヨリ滿鉄ヘノ借款申込ニ関シ問合

ノ件

第一九二号

蒙古巴林王チャカル親王ヨリ滿鉄ヘ金二万円担保地租利息八分期限二年ノ借款申込アリ貴官モ熱心ニ成立希望ノ趣大塚理事ヨリ來電アリタリト帝國政府ノ意向滿鉄總裁ヨリ

二一 蒙古借款ニ関スル件 四三九 四四〇

伺出タリ就テハ該借款ヲ申込ムニ至リタル事情等御承知ナレハ之ニ対スル貴見ト共ニ電報アリタシ

四三九 四月十九日

在中国山座公使ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

蒙古巴林王ヨリ満鉄へ申込ノ借款ニ付答申ノ

件

第三二九号

貴電第一九二号ニ関シ予テ当地横浜正金銀行支店ヨリ巴林王ニ二千兩ノ貸金アリ返済方催促ノ末同王ニ於テモ他ニ入用アル矢先トテ正金支配人ノ紹介ニテ満鉄ニ相談ヲ持込タル次第ナリ本件ハ可成成立セシムル方可然ト存スル所担保ニ付テハ当地満鉄代表者ト相談ノ際同王ハ鉱山ニテモ宜シキガ右ハ先年大倉組ヨリノ借款ニ抵当トナリ居ル關係上(明治四十五年四月二十三日機密第三六号拙信参照)如何アランカト思フモ當時自分カ多賀少佐ヨリ受取リタル現金ハ僅カニ二千弗其他ハ軍器ニテ受取ル筈ナリシカ軍器ハ其儘入手セス從テ大倉借款ハ事実ニ二千弗ニ止マル訳故此ノ際鉱山ヲモ満鉄借款ニ二番抵当トナスモ差支ナカランカト云ヘル由ナリ多賀ノ關係ニ付テハ事情不明ナルモ果シテ右様

有之候間右様御承知相成度此段及報告候也

写送付先

落合奉天總領事

註 漢文ノ契約書ヲ省略ス

(附屬書)

(写)

契約書

昭烏達盟副長巴林右旗扎薩克親王扎噶爾(以下単ニ甲ト称ス)ハ産業開発ノ為メ日本資本家鎌田弥助(以下単ニ乙ト称ス)トノ間ニ借款ヲ締結ス其議定条項左ノ如シ

第一条 乙ハ甲ニ日本金貳万円ヲ貸与ス此金額ハ本契約書ニ記名調印ト同時ニ乙ヨリ甲ニ交付ス

第二条 本借款ハ二箇年ヲ以テ期限トシ大正五年四月三十日ニ於テ全額ヲ償却ス

第三条 利子ハ年八分(元金壹百円ニ対シ金八円ノ割合)毎年陽曆四月三十日ニ於テ甲ヨリ乙ニ北京ニテ支払フモノトス

第四条 本契約担保ハ巴林右旗扎薩克親王扎噶爾旗ニ於テ甲ニ収ムル地租並ニ同旗内ノ諸礦山開掘權及牧畜ニ関ス

二一 蒙古借款ニ関スル件 四四〇

六七六

ノ次第ナルニ於テハ満鉄ハ大倉ノ關係ヲ考量ニ容レスシテ(巴林王ハ二千弗サヘ返済セハ大倉ト無關係ナリト云ヘル由)地租ト同時ニ鉱山ヲ抵当トナスコトニ相談ヲ試ミ可然ト存ス

四四〇 五月十一日

在中国山座公使ヨリ
加藤外務大臣宛

満鉄蒙古巴林王間ニ貳萬円ノ借款契約成立ノ

件

附屬書 五月七日附右契約書写

機密第二〇二号

(五月十八日接受)

大正三年五月十一日

在支那

特命全權公使 山座円次郎(印)

外務大臣男爵 加藤高明殿

本件ニ関シテハ曩ニ貴電第一九二号御問合セニ対シ往電第三二九号ヲ以テ及答申置タル次第有之候処其後満鉄側ヨリ奉天公所員鎌田弥助ヲ当地ニ派遣シ当地駐在員新橋栄次郎ト共ニ借款契約ニ就キ巴林王ト打合セノ結果本月七日別紙写ノ通り成立調印ノ上現金ヲ交附シタル旨同人等ヨリ届出

ル土地使用權トス

第五条 本契約期限内ニ於テ更ニ借款ヲ行ハントスル場合ハ先ツ之ヲ乙ニ量リ其ノ条件不合ナル時ハ始メテ他ヨリ借款スルコトヲ得、但シ第四条担保ヲ抵当ト為スコトヲ得ス

第六条 将来旗内ノ礦物ヲ開採セントスル場合ハ甲乙両者ノ合同事業ト為シ其資金ハ双方ヨリ其一半ヲ出スモノトス

前項ノ場合ニ於テ甲若シ出資シ能ハサル時ハ乙ハ甲ニ其出資スヘキ資金ヲ貸与スヘシ

第七条 本契約書ハ日漢両文ニテ各式通ヲ作製シ署名調印ノ上双方ニ各壹通宛ヲ保有ス

大正三年五月七日
民国三年五月七日

貸主 鎌田弥助(印)
借主 巴林王扎噶爾(印)
立会人 実相寺貞彦(印)
新橋栄次郎(印)

六七七